

令和 7 年度 医療・介護・保育施設、公衆浴場等物価高騰対策応援金
(児童養護施設等分) 支給要綱

(目的)

第 1 条 県は、医療・介護・保育施設、公衆浴場等において、エネルギー・食材価格高騰の影響により費用負担が増大している一方、収入は公定価格で決められているなど、高騰分を直ちに価格転嫁することが困難な状況を踏まえ、当該施設を運営する事業者等に対し、予算の範囲内で医療・介護・保育施設、公衆浴場等物価高騰対策応援金（以下「応援金」という。）を支給するものとし、その支給に関してはこの要綱に定めるところによる。

(事務局の設置)

第 2 条 知事は、前条の目的を達成するため、医療・介護・保育施設、公衆浴場等物価高騰対策応援金事務局（以下「事務局」という。）を設置するものとし、応援金の支給に必要な事務は事務局が行う。

(支給の対象者)

第 3 条 応援金の支給の対象者は、令和 7 年 6 月 1 日現在(以下「基準日」という。)において、所在地が島根県内にある者であって、光熱費分については別表 1 に、食材料費分については別表 2 に掲げる施設（児童自立生活援助事業所及びファミリーホームを含み、休止中のものを除く。）を運営する事業者及び基準日時点において島根県から里親委託を受けている者とする。

(支給額の算定方法)

第 4 条 応援金の支給額は、次の各号のとおりとする。

- (1) 光熱費 別表 1 に掲げる対象施設等の区分に応じて定める額
 - (2) 食材料費 乳児院、児童養護施設、児童心理治療施設、児童自立生活援助事業所及びファミリーホームにおいては施設定員数に、里親においては基準日時点で島根県から委託を受けている児童数に、別表 2 に定める基準単価を乗じた額とする。
- 2 応援金の支給は、各別表の区分ごとに 1 回限りとする。

(支給の申請方法)

第 5 条 応援金の支給の申請は応援金の支給対象となる施設又は里親ごとにつき 1 回とし、応援金の申請を行う対象者は、支給申請書（別記様式並びに別紙 1 及び 2）を知事に提出するものとする。

(申請の期間)

第 6 条 応援金の支給の申請期間は、事務局が応援金の受付を開始した日から令和 7 年 10 月 9 日までとする。

(不支給要件)

第 7 条 申請書を提出した対象者であっても、次の各号のいずれかに該当する者に対しては応援金を支給しない。

- (1) 虚偽の申請をした者
- (2) 島根県暴力団排除条例（平成 22 年島根県条例第 49 号）第 2 条第 1 号の暴力団又は同条第 3 号

の暴力団員と密接な関係を有する者

(3) 拘禁刑以上の刑に処せられ、その執行を終わるまで又はその執行を受けることがなくなるまでの者

(4) 風俗営業等の規制及び業務の適正化等に関する法律（昭和23年法律第122号）第2条第5項に規定する性風俗関連特殊営業又は当該営業に係る接客業務受託営業（同条第13項に規定する接客業務受託営業をいう。）を行う者

(5) 島根県税を滞納している者

(6) 前各号に掲げる者のほか、本応援金の趣旨及び目的に照らして適当でないと知事が認める者

2 応援金を支給しないことを決定したときは、申請書を提出した対象者に通知するものとする。

（支給の決定等）

第8条 知事は、提出された支給申請書の記載事項等について、記載漏れ、表示の錯誤、添付書類の不備等がないか点検し、適正なものであると認めた場合はこれを受理する。

2 知事は、受理した支給申請書について、本要綱に基づき審査し、応援金を支給すべきと認めたときは、応援金の支給を決定し、申請者に通知する。

（応援金の支給）

第9条 知事は、前条の規定による支給の決定後、申請者に対し応援金を速やかに支給するものとする。

（申請の取下げ）

第10条 申請者は、支給の決定が行われるまでの間は、当該申請を取り下げることができる。

（決定の取消し）

第11条 知事は応援金の支給を受けた者（以下「応援金受給者」という。）が第7条の規定による応援金の不支給要件に該当することが判明したとき又は応援金の支給の決定の内容若しくはその他法令若しくはこれに基づく知事の処分に違反したときは、応援金の支給の決定の全部又は一部を取り消すことができる。

（応援金の返還）

第12条 知事は、前条の規定により応援金の支給の決定を取り消した場合において、当該取消しに係る部分に関し既に応援金が支給されているときは、期限を定めて、当該応援金の返還を命ずるものとする。

（返還加算金）

第13条 応援金受給者は、前条の規定により応援金の返還を命ぜられたときは、その命令に係る応援金の受領の日から納付の日までの日数に応じ、当該応援金の額（その一部を納付した場合におけるその後の期間については、既に納付した額を控除した額）につき年10.95パーセントの割合で計算した加算金を県に納付しなければならない。

2 前項の規定により加算金を納付しなければならない場合において、応援金受給者の納付した金額が返還を命ぜられた応援金の額に達するまでは、納付した金額は、当該返還を命ぜられた応援金の額に充てられるものとする。

3 知事はやむを得ない事情があると認めるときは、応援金受給者の申請に基づき、加算金の全部

又は一部を免除することができる。

(公表)

第14条 知事は、不正受給その他の不正な行為があると認めるときは、申請者の名称、代表者名、応援金の内容等について公表することができる。

(申請内容の情報提供)

第15条 知事は、公益上特に必要があると認めるときに限り、国その他の関係機関に対し、個人情報を含む申請内容を提供することができる。

(その他)

第16条 この要綱に定めるもののほか、この応援金の支給に関して必要な事項については、知事が別に定める。

附 則

- 1 この要綱は、令和4年12月19日から施行し、令和4年12月16日から適用する。

附 則

- 1 この要綱は、令和5年7月26日から施行する。

附 則

- 1 この要綱は、令和7年6月20日から施行する。

別表 1 光熱費（第 3 条・第 4 条関係）

対象施設等	応援金支給額
乳児院 児童養護施設 児童心理治療施設 母子生活支援施設	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認可定員が30人未満の施設 1 施設当たり 168,000円 ・ 認可定員が30人以上50人未満の施設 1 施設当たり 252,000円 ・ 認可定員が50人以上の施設 1 施設当たり 378,000円 ・ 通所部を有している施設にあっては、1 施設当たり 42,000円を加算する。
児童自立生活援助事業所（I 型に限る。） ファミリーホーム	1 か所当たり 84,000円
里親	児童 1 人当たり 9,000円

（備考）

- 1 認可定員には通所部の定員は含めず、児童養護施設にあっては、地域小規模児童養護施設の定員を含む。
- 2 母子生活支援施設にあっては、認可された定員（世帯数）にR4年度からR6年度までの 1 世帯当たりの入所者数の平均値（小数点以下第 2 位を四捨五入した値）を乗じた値を支給額の算定に用いる定員（人）とみなす。

別表 2 食材料費（第 3 条・第 4 条関係）

対象施設等	基準単価
乳児院 児童養護施設 児童心理治療施設 児童自立生活援助事業所 ファミリーホーム 里親	児童1人当たり 10,500円

（備考）

施設定員には通所部の定員は含めず、児童養護施設にあっては、地域小規模児童養護施設の定員を含む。